

さいたま市文化財時報

かや 榎りぼーと

第51号

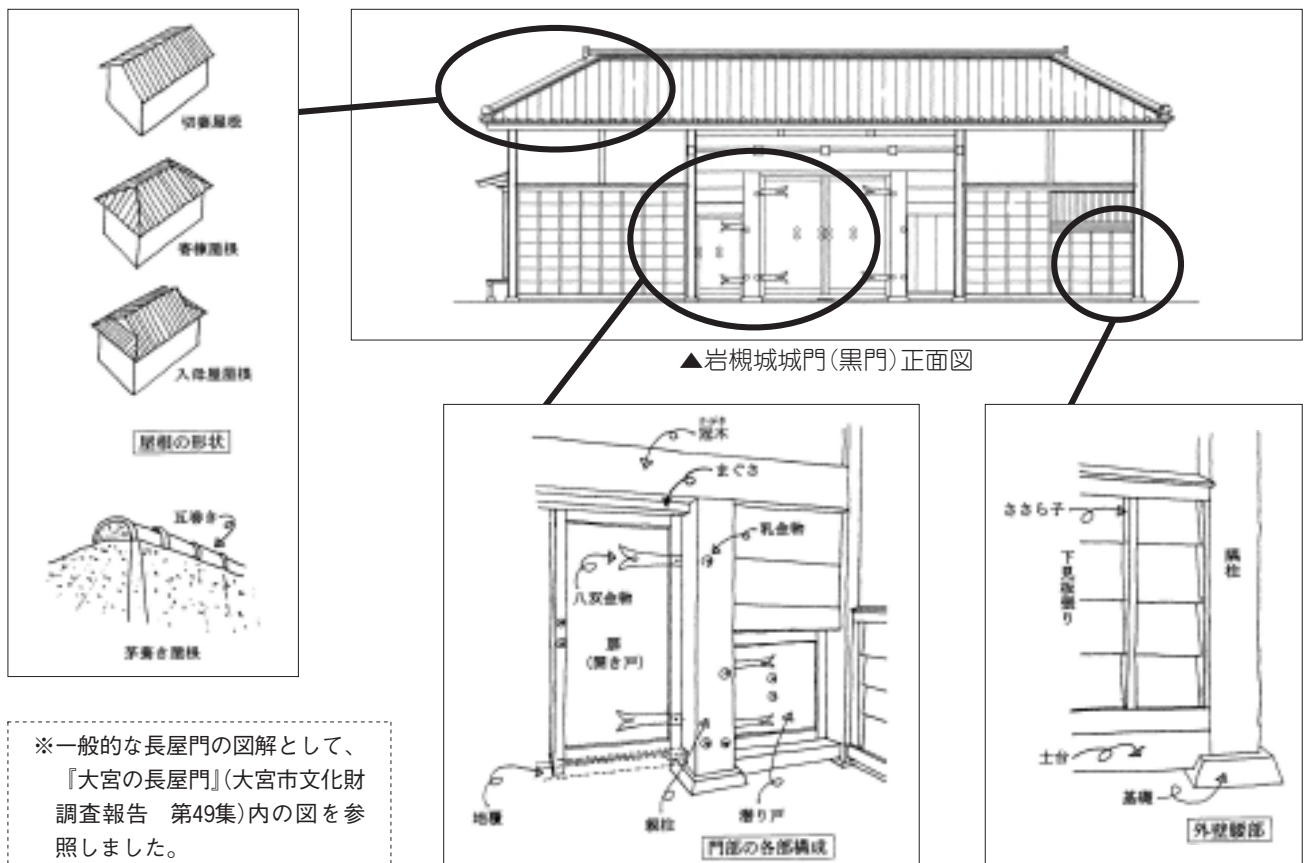
さいたま市内の長屋門

平成25年12月27日現在、さいたま市内には、526件の指定文化財と6件の登録文化財があります。それは物であったり、技であったり、自然であったりと様々な形があります。今回は、それらの中でも特徴的な建造物である長屋門についてご紹介したいと思います。

*以下では、指定名称をゴシック体で記し、国・県と注記してあるもの以外は市指定文化財を示しています。

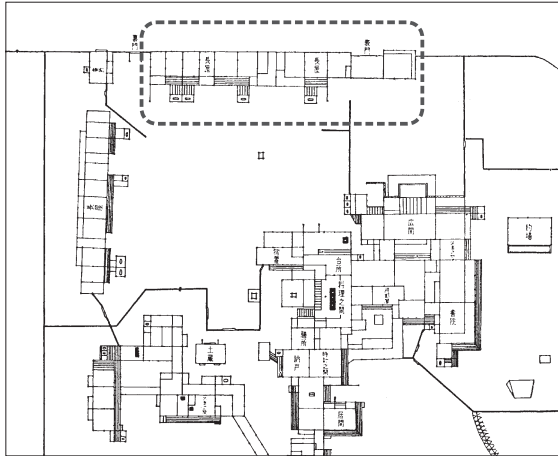
武家の長屋門

長屋門は、近世以降、武家屋敷の敷地の周囲にめぐらせた長屋(家臣の住居)の一部を門として開いたものです。旧丸の内大名小路(現在の千代田区丸の内3丁目)にあった鳥取藩池田家江戸上屋敷の正門が東京国立博物館に移築されていますが、これは左右に番所を備えており、武家屋敷最高の格式を持つものとして有名です。



※一般的な長屋門の図解として、『大宮の長屋門』(大宮市文化財調査報告 第49集)内の図を参照しました。

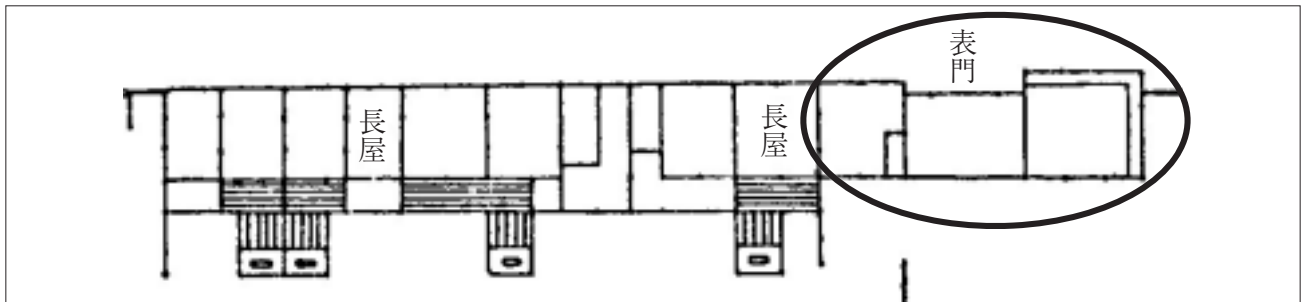
さいたま市内では、**岩槻城城門(黒門)**〔岩槻区太田〕がそれにあたります。この門は、^{けたゆき}桁行(幅)約13.0m、^{はりま}梁間(奥行)約3.7m。屋根は^{よせむねづくり}寄棟造で瓦葺です。木部が黒塗りされていることから、「黒門」という名で親しまれています。かつて、岩槻城の大手門ともいわれましたが、諸資料の記す岩槻城大手門の形式とは異なっており、城内での本来の位置は不明ですが、三の丸にあった藩主居宅の表門の可能性が高いとされています。



※長屋が並んでいる一番右端の「表門」と書かれたところ(下図丸枠内)が、岩槻城城門(黒門)があった場所ではないかとされています。この絵図を見ると長屋の一部が門として開かれた様子がうかがえます。

◀三の丸屋形絵図(一部)(岩槻市史 通史編)

▼三の丸屋形絵図(上図の破線内拡大図)



村や町の長屋門

村や町においても、本陣や村役人の家等では、武家の門に類似した長屋門が使われる場合があります。

市内に目を移してみると、武家の門に類似した形式の長屋門としては、**大門宿本陣表門**〔緑区大門、県史跡〕、**大門宿脇本陣表門**〔緑区大門〕、**深井家長屋門**〔緑区上野田〕、**永田家長屋門**及び**笹子堀**〔西区土屋〕、**細淵家住宅長屋門**〔南区沼影、国登録〕が、その特徴をよく表しています。

大門宿本陣表門は、日光御成道大門宿に残る本陣の表門で、間口約16.3m、奥行約4.6m。屋根は寄棟造で、^{かやぶき}茅葺です。正面中央の板扉の右側には、番所が設けられています。

また、左右の壁面は大壁(全体を塗り壁として柱を現わさない造り)ですが、^{こしかべ}腰壁は^{したみ}簾子下見(前ページ右下図のような造り)となっています。元禄7年(1694)に建立され、文政7年(1824)に修理されたことが門柱のほぞ内の^{ぼくしよめい}墨書銘によって明らかになっています。



▲大門宿本陣表門

大門宿脇本陣表門は、安永5年(1776)の十代将軍徳川家治の日光社参に際し建立されたといわれています。屋根は、寄棟造で茅葺です。桁行約16.0m、梁間約4.6m。

なお、大門宿の規模は、天保14年(1843)の日光御成道宿村大概帳によると、戸数180軒、人口896人、本陣と脇本陣各1軒、旅籠6軒でした。

深井家長屋門は、江戸時代、弘化元年(1844)に建立されました。屋根は寄棟造で、茅葺です。桁行約21.2m、梁間約5.5m。足立郡南部領上野田村の幕府直轄領名主家の表門です。

永田家長屋門及び籠子堀は、江戸時代終り頃に建立されました。屋根は寄棟造で^{さんがわらぶき}棧瓦葺です。桁行約21.2m、梁間約4.8m、棟高約6.2m、面積約100.5²mで、長屋門両端に^{きよくせつ}曲折の籠子堀を接続しています。平田禿木の「門」という作品(随筆)にも、この長屋門についての記述があります。

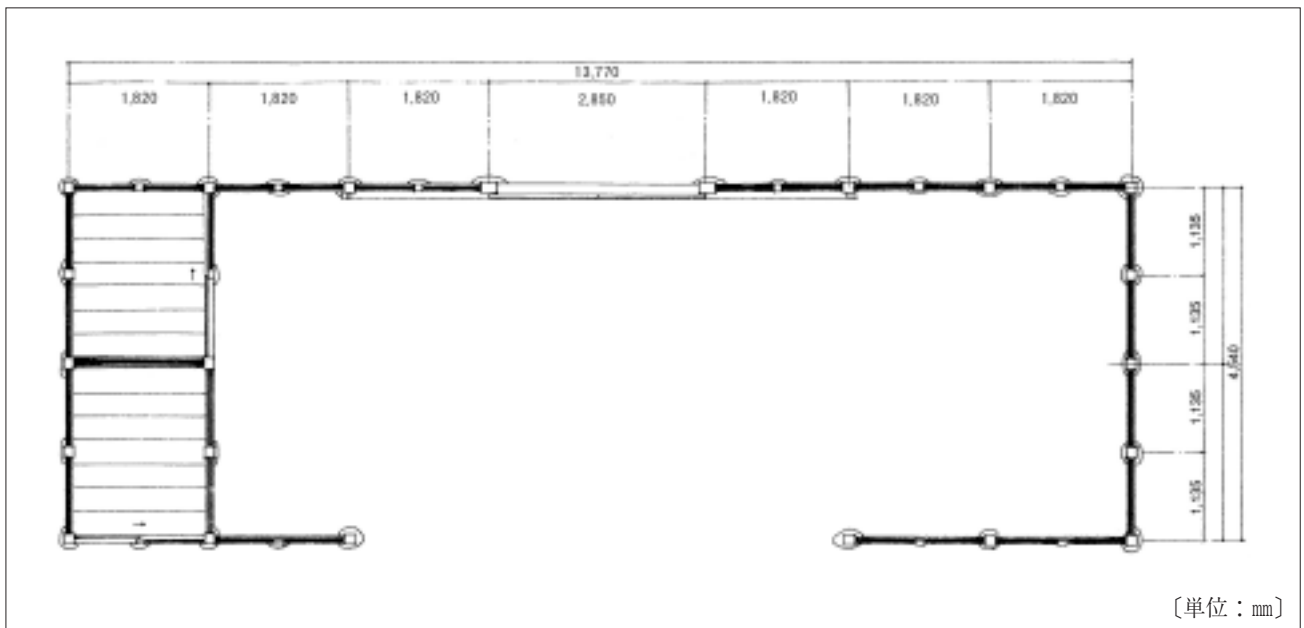
細淵家住宅長屋門は、屋敷の東側に設けられた木造平屋建、^{きりづまづくり}切妻造、棧瓦葺の長屋門です。明治期に移築された武家屋敷の門で、正面右側に^{くくと}潜り戸、番所を持ち、左側は納屋につながっています。この地域の豪農としての格式と景観的要素を伝えています。

村や町の長屋門には、武家の門に近い形式のものだけでなく、農作業や農機具の貯蔵・保管のための物置や納屋としての役割がその形式に強く出ているものもあります。

市内では、浦和くらしの博物館民家園に移築復原された、**旧武笠家表門**〔緑区下山口新田〕が挙げられます。江戸時代に建立され、間口約13.8m、奥行約4.5m。屋根は寄棟造で、茅葺です。この長屋門の特徴は、門構え部分が内側に下がらず、扉も引き寄せ戸となっていることです。用途も、普段は作業場や納屋として使われ、冠婚葬祭など特別なときに門として使われたようです。



▲旧武笠家表門



▲旧武笠家表門平面図

福島からこんにちは

～東日本大震災復旧・復興支援派遣職員レポート
(平成25年度・第3回)～

津波の被害を受けた田畑は、被害の度合いや地盤沈下の程度によって、さまざまな方法での復旧や復興が計画されています。被害が少なく、すでに復旧を終えたところもありますが、排水機場が被災したり、地盤沈下で耕作に適さなくなったりしてしまったところは、水田を完全に作り直す大規模な復興工事が予定されています。

こうした工事が行われる場合は、着工に先立ち、地中の埋蔵文化財の有無を調べています。広大な水田での試掘調査は、主に重機で掘削を行って有無を確認していますが、排水設備の被災や地盤沈下で水はけが悪くなっているところも多く、梅雨や秋雨の時期はぬかみに足を取られながら、湧水を汲み出しながらの調査が続きました。

(文化財保護課 埋蔵文化財係 主任 橋本 玲未)



▲南相馬市鹿島区内の水田での試掘調査

TOPICS

●「砂の万灯」が、平成25年度文化ともしび賞を受賞しました。

平成25年11月18日、県内において地道な文化活動を続け、地域文化の向上に貢献している団体として埼玉県より表彰されました。

お知らせ

□木遣歌〔さいたま市消防出初式〕

日時 平成26年1月12日(日) 雨天中止
10時から出初式開始、木遣歌公開は11時頃
場所 大宮消防署訓練場(大宮区天沼町1-893)

□田島の獅子舞〔春の祭礼〕

日時 平成26年3月16日(日)16時～ 雨天決行
場所 田島氷川社(桜区田島4-12-1)
※公開の時間は多少前後することがあります。詳しくはさいたま市のWebページをご覧ください。文化財保護課(☎829-1723)までお問合せください。



▲田島の獅子舞

さいたま市文化財時報

榎りぼーと

第51号

平成25年12月27日

《編集・発行》

さいたま市教育委員会 生涯学習部 文化財保護課
☎330-9588 さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号
☎048-829-1723 ㊚048-829-1989
<http://www.city.saitama.jp/>